

岡山県感染症週報 2013 年 第 22 週 (5 月 27 日～6 月 2 日)

岡山県は『インフルエンザ注意報』を解除しました。(6 月 6 日)

◆2013 年 第 22 週 (5/27～6/2) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第 20 週 2 類感染症 結核 2 名 (60 代 男 2 名)
 第 21 週 2 類感染症 結核 4 名 (50 代 男 2 名、70 代 男 1 名・女 1 名)
 5 類感染症 風しん 2 名 (20 代 男 1 名、30 代 男 1 名)
 第 22 週 2 類感染症 結核 4 名 (10 代 男 1 名、20 代 女 1 名、30 代 女 1 名、80 代 女 1 名)
 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 2 名 (O157: 20 代 女 1 名、児童 男 1 名)
 4 類感染症 レジオネラ症 1 名 (60 代 男)
 5 類感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 1 名 (幼児 男)
 風しん 4 名 (10 代 男 1 名、30 代 男 2 名、50 代 男 1 名)

■定点把握感染症発生状況

- インフルエンザは、29 名 (定点あたり 0.93 → 0.35 人) の報告があり、前週より減少しました。
 ○感染性胃腸炎は、455 名 (定点あたり 8.26 → 8.43 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。

【第 23 週 速報】

- 腸管出血性大腸菌感染症 1 名 (O157: 生徒 男) の発生がありました。(6 月 5 日)

1. **風しん**は、21 週に 2 名、22 週に 4 名の発生報告がありました。岡山県では今年の第 1～22 週までの報告累計が 45 名となり、第 15 週以降 7 週連続して発生報告が続いています。
 全国の第 1～21 週までの累計報告数は、昨年同時期の約 36 倍となる 8,507 名が発生し、依然、患者の急増が続いています。風しんについて、詳しくは『今週の注目感染症』をご覧ください。
2. **腸管出血性大腸菌感染症**は、2 名の報告があり、今年は第 22 週までに 14 名が報告されています。過去 5 年の同時期とほぼ同数の発生ですが、例年 5 月頃から患者が増加する傾向がありますので、食肉は中心部まで火を通すなど、通常の食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。
3. **感染性胃腸炎**は、455 名 (定点あたり 8.26 → 8.43 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。
 県内の発生状況など詳しくは『感染性胃腸炎情報』をご覧ください。
4. **手足口病**は、備中地域で定点あたり 5.29 人となり、定点あたり患者数が 5 人を上まわったため、レベル 3 になりました。例年 7 月～8 月頃に流行のピークを迎えますが、6 月頃から患者数の増加が見られます。患者との接触を避け、うがいや手指の手洗い・消毒を励行する等、感染予防に努めましょう。
5. **インフルエンザ**は、県全体で 29 名 (定点あたり 0.93 → 0.35 人) の報告があり、前週より減少しました。
 岡山県は 2 週連続して定点あたり患者数が 1 人を下まわったため、6 月 6 日「インフルエンザ注意報」を解除しました。県内の詳しい発生状況などは『インフルエンザ情報』をご覧ください。
 全国の第 21 週 (5/20～5/26) の集計によると、定点あたり 1.21 人であり、前週 (1.87 人) より減少しました。

【お知らせ】今シーズンにおける定期的なインフルエンザ情報は、今週 (第 22 週) をもって終了いたします。

2013/2014 年シーズンは、2013 年 11 月頃からの掲載を予定しています。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↓	★	RSウイルス感染症	→	
咽頭結膜熱	↗	★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	★★
感染性胃腸炎	→	★★★	水痘	↘	★★
手足口病	↑	★	伝染性紅斑	↑	★
突発性発疹	↘	★★	百日咳	→	
ヘルパンギーナ	→	★	流行性耳下腺炎	↗	★
急性出血性結膜炎	→		流行性角結膜炎	↓	★
細菌性髄膜炎	→		無菌性髄膜炎	→	
マイコプラズマ肺炎	↓		クラミジア肺炎	→	

【記号の説明】 前週からの推移:



: 2 倍以上の減少



: 1.1～2 倍未満の減少

→ : 1.1 未満の増減



: 1.1～2 倍未満の増加



: 2 倍以上の増加

発生状況: 空白: 発生なし

★: 僅か

★★: 少し

★★★: やや多い

★★★★: 多い

★★★★★: 非常に多い

※今週の流行状況を過去 5 年と比較し、5 段階で表示しています。

今週の注目感染症

風しん

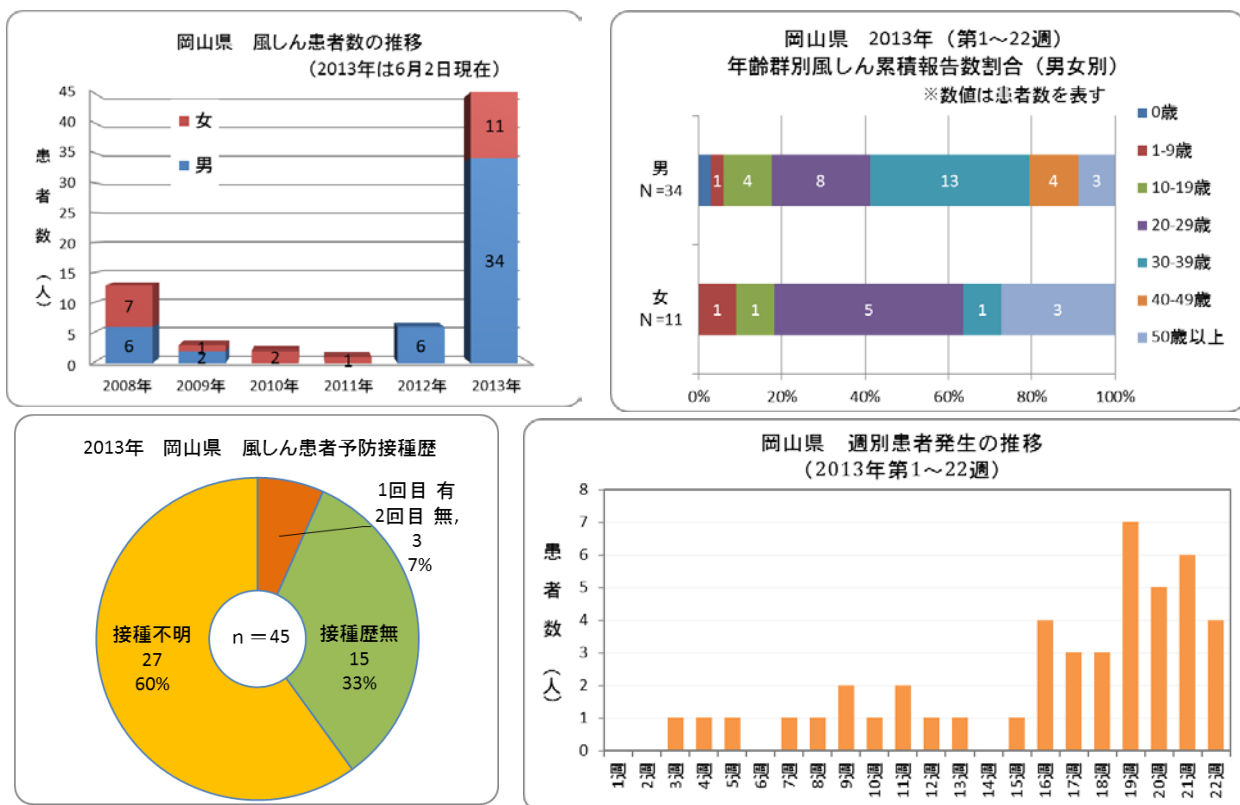
風しんは、「三日ばしか」とも呼ばれ、感染症発生動向調査において全数把握感染症の5類感染症であり、医師は風しん患者を診断したときには、最寄りの保健所に届出ることになっています。

今年は、関東地方・近畿地方を中心に患者の急増が続いています。風しんは飛沫感染により感染します。風しんの流行地域に出掛け、その後、全身性の発疹、発熱、リンパ節腫脹などの症状がでた場合は、風しんの可能性もありますので早めに医療機関を受診してください。

(国立感染症研究所 風しん Q&A)

【岡山県の風しん発生状況】

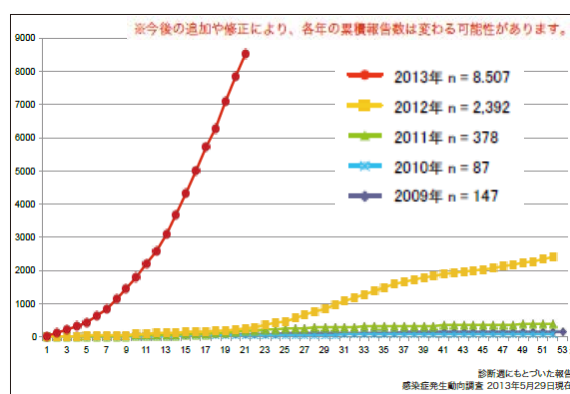
岡山県では、21週に2名、22週に4名の発生報告がありました。2013年第1～22週までの累積患者数は45名となり、第15週以降7週連続して発生報告が続いています。患者は、全国集計同様20～30代の男性が中心であり、予防接種歴は、接種歴無しが15名、接種不明が27名、1回のみ接種が3名でした。



【全国の風しん発生状況】

今年、全国の第1～21週までの累積報告数は8,507名であり、関東地方・近畿地方を中心に、患者の急増が続いています。患者の約8割は男性で、そのうち20～40代が83%を占めています。また女性は、20～30代が59%を占めています。この年齢層は、風しんの予防接種を受ける機会がなかった、または、集団接種から個人接種に切り替わったため、接種率が低く、抗体保有率が低い年齢層とされています。

また、妊婦が風しんにかかり、胎児に障がいが発生する**先天性風しん症候群 (CRS)**は、2012年は5名でしたが、2013年は4月24日までに、すでに5名の発生がありました。



全国風しん累積報告数の推移 2009～2013年(第1～21週)
国立感染症研究所 感染症疫学センターホームページより

【風しんの予防接種を受けましょう。】

風しんの有効な予防方法は、予防接種を受けることです。

風しんの定期予防接種対象者(1歳児、小学校入学前1年間の幼児)は、積極的に予防接種を受けましょう。また、定期予防接種の対象者以外の方でも、風しんの抗体価が十分であると確認ができた方以外の方は、任意での予防接種を受けることをご検討ください。予防接種については、市町村の予防接種担当課へご相談ください。

風しんの予防接種を受けられる場合は、麻しん対策の観点も考慮し、麻しん風しん混合ワクチンを接種されることが推奨されています。

[おかやま医療情報ネット](#) から、予防接種を実施している医療機関を検索することができます。ワクチンの在庫及び、予防接種のご予約等については、各医療機関にお問い合わせください。

インフルエンザ情報 2013 年 第 22 週 (5 月 27 日 ~ 6 月 2 日)

岡山県は『インフルエンザ注意報』を解除しました。(6 月 6 日)

【お知らせ】今シーズンにおける定期的なインフルエンザ情報は、今週（第 22 週）をもって終了いたします。

2013/2014 年シーズンは、2013 年 11 月頃からの掲載を予定しています。

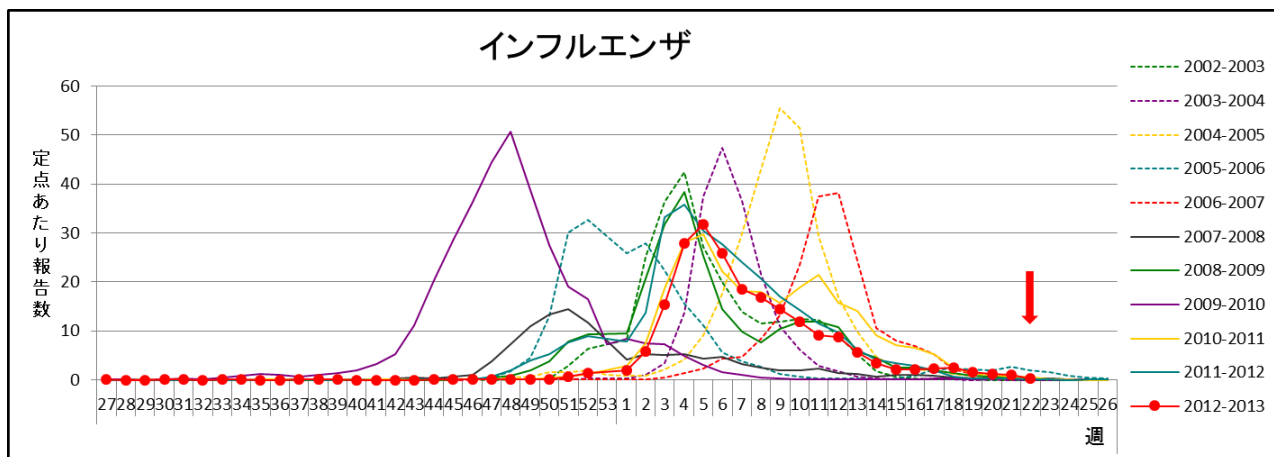
➤ 岡山県の流行状況

○インフルエンザは、29 名（定点あたり 0.93 → 0.35 人）の報告があり、前週より減少しました。

岡山県は、6 月 6 日「インフルエンザ注意報」を解除しました。

○インフルエンザとみられる学校等の臨時休業はありませんでした。

○インフルエンザによる入院患者 1 名の報告がありました。



※インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、前年 27 週 ~ 今年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

インフルエンザは、29 名（定点あたり 0.93 → 0.35 人）の報告があり（84 定点医療機関報告）、前週より減少しました。

岡山県では第 5 週（31.79 人）をピークに患者発生は減少をつづけ、定点あたり患者報告数が第 21 週 0.93 人、第 22 週 0.35 人と 2 週連続して 1 人を下まわったため、平成 25 年 1 月 17 日に発令された「インフルエンザ注意報」は、6 月 6 日をもって解除されました。岡山県内の全ての地域で患者報告数が定点あたり 1 人を下まわり、今シーズンのインフルエンザの流行は終息したと考えられます。

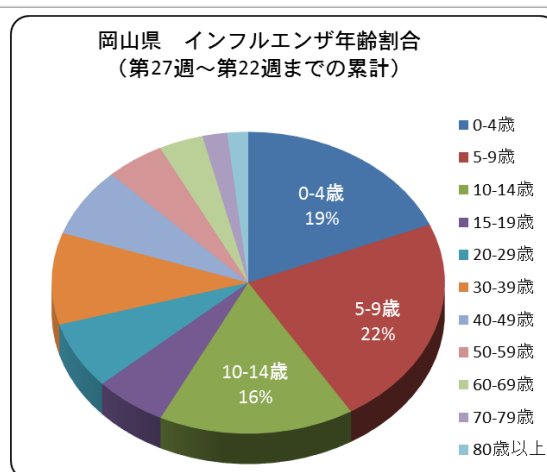
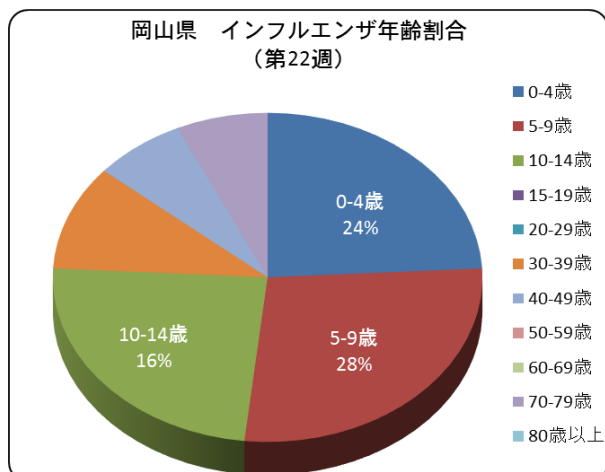
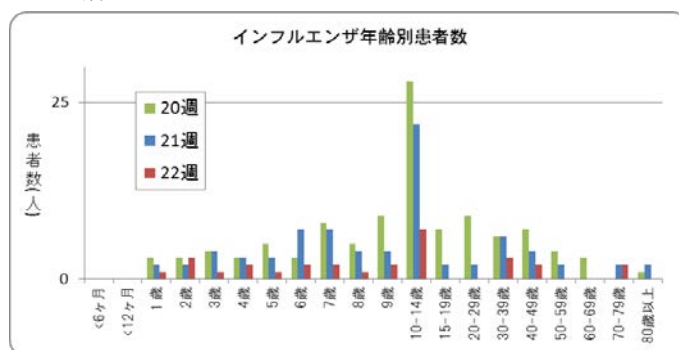
注意報は解除になりましたが、日常における感染予防として、ひきつづき手洗い・うがいなどの感染予防を心がけましょう。

※注意報の解除基準：2 週連続して、定点あたり 1 人を下まわった場合。

1. 年齢別発生状況

インフルエンザ患者の年齢割合は、5-9 歳が 28%、0-4 歳が 24%、10-14 歳が 16% の順で、幼児、小学生、中学生に該当する年齢層が患者の 68% を占めています。

インフルエンザによる入院患者も報告されていますので、ひきつづき感染に注意してください。

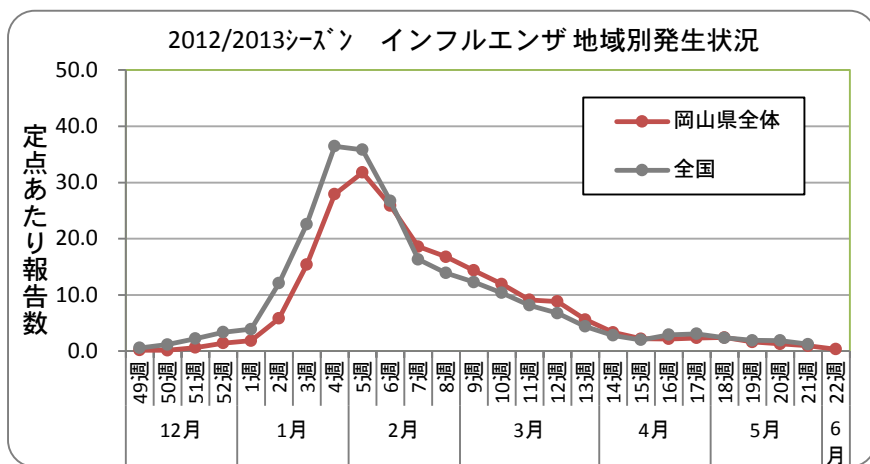


2. 地域別発生状況

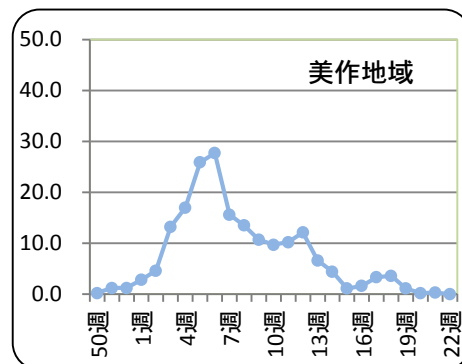
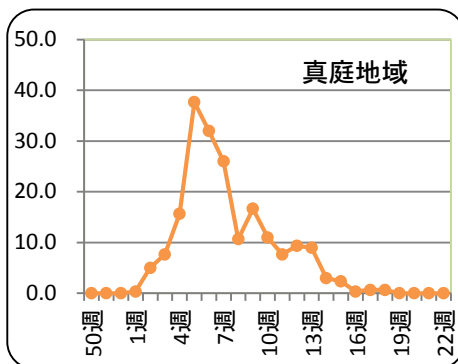
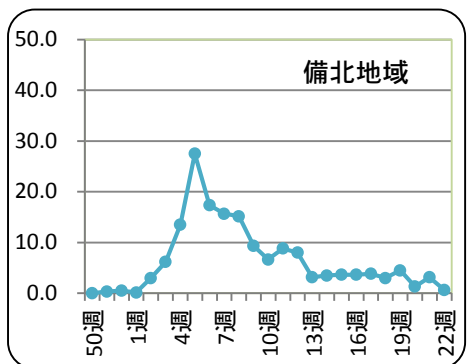
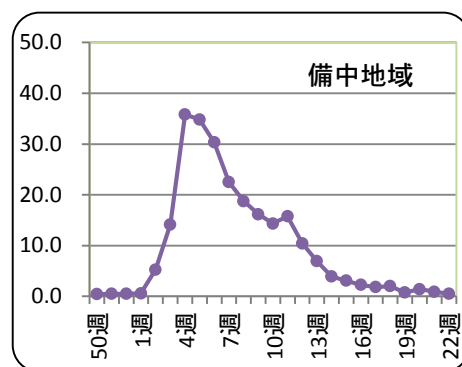
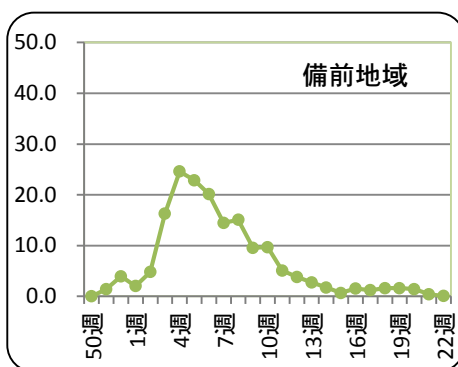
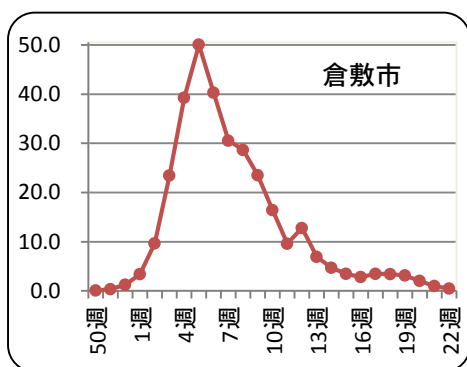
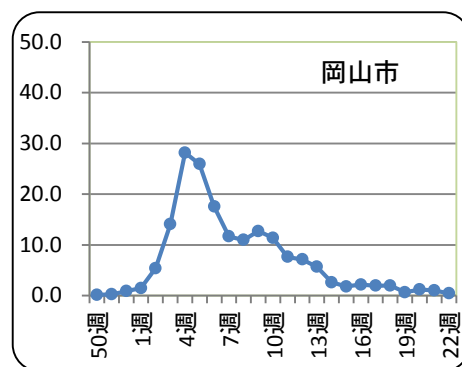
前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	29	↓	備 中	患者数	6	↘
	定点あたり	0.35			定点あたり	0.50	
岡山市	患者数	10	↓	備 北	患者数	4	↓
	定点あたり	0.45			定点あたり	0.67	
倉敷市	患者数	8	↓	真 庭	患者数	0	→
	定点あたり	0.50			定点あたり	0.00	
備 前	患者数	1	↓	美 作	患者数	0	↓
	定点あたり	0.07			定点あたり	0.00	

【記号の説明】 前週からの推移： 2倍以上の減少 ↓ 1.1～2倍未満の減少 ↘ 1.1未満の増減 →
1.1～2倍未満の増加 ↗ 2倍以上の増加 ↑



全国集計第21週(5/20～5/26)の定点あたり患者数は1.21人となり、前週(1.87人)よりも減少しました。都道府県別では沖縄県(4.64人)、富山県(3.81人)、宮崎県(3.81人)の順に多く、44都道府県で前週の報告数より減少しました。



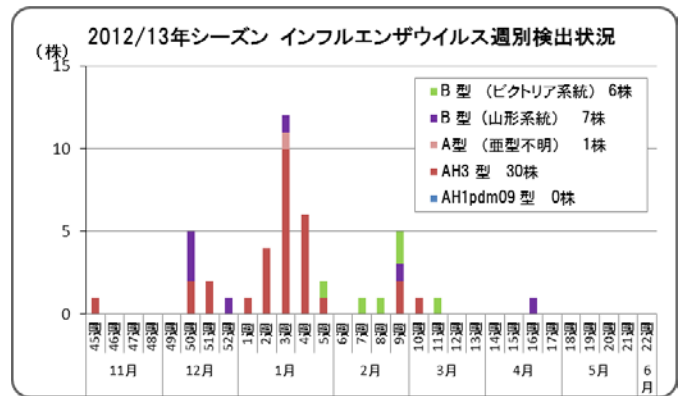
3. インフルエンザウイルス検出状況

第22週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、ありませんでした。

今シーズンで、これまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が30株、A型（亜型不明）が1株、B型（山形系統）が7株、B型（ビクトリア系統）が6株です。

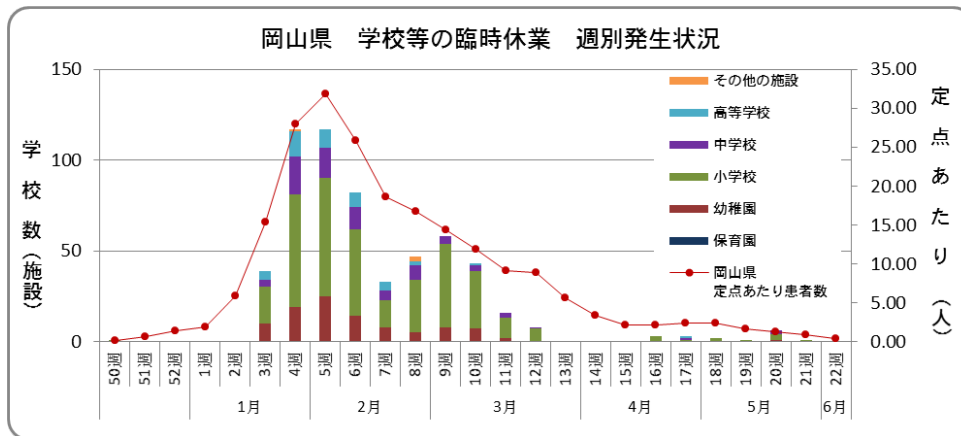
全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が最も多く79%、B型が19%、AH1pdm09型が2%の順になっています。昨シーズン同様AH3型が主流になっていますが、B型の検出割合が徐々に増加しています。

[（インフルエンザウイルス分離・検出速報 国立感染症研究所 感染症疫学センター）](#)



4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザとみられる学校等の臨時休業はありませんでした。



◆臨時休業施設数

1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳 第22週

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	0	7933	0	5870	0	578	0	22	0	185	0	371	H 24. 11. 6
岡山市	0	2955	0	2144	0	190	0	2	0	32	0	156	H24. 11. 6
倉敷市	0	1791	0	1288	0	109	0	1	0	15	0	93	H25. 1. 15
備前地域	0	904	0	693	0	83	0	4	0	37	0	42	H25. 1. 15
備中地域	0	1115	0	899	0	93	0	6	0	42	0	45	H24. 12. 12
備北地域	0	310	0	238	0	32	0	3	0	23	0	6	H25. 1. 21
真庭地域	0	128	0	90	0	12	0	1	0	9	0	2	H25. 1. 21
美作地域	0	730	0	518	0	59	0	5	0	27	0	27	H25. 1. 15

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています

2) 臨時休業施設数の内訳

第22週：0施設

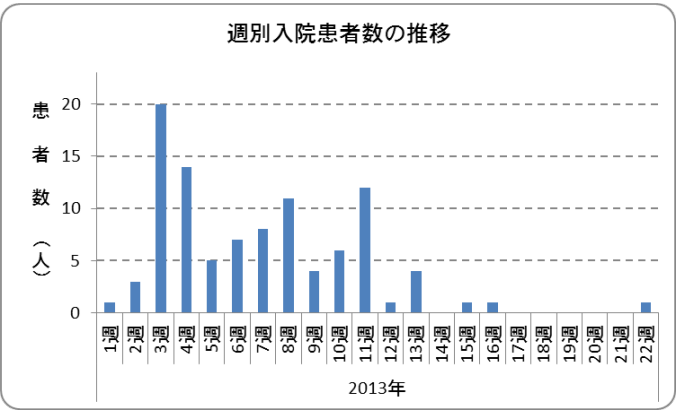
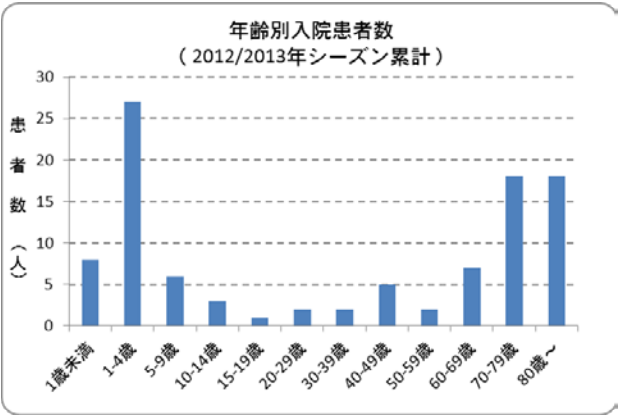
累計：578施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	0	99	0	347	0	81	0	47	0	4

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、80 歳以上 1 名の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



【第 22 週 入院患者報告数】

年齢	1 歳未 満	1～4 歳	5～9 歳	10～ 14 歳	15～ 19 歳	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60～ 69 歳	70～ 79 歳	80 歳 以上	計 *
入院患者数												1	1
ICU 入室													
人工呼吸器の利用													
頭部 CT 検査(予定含)													
頭部 MRI 検査(予定含)													
脳波検査 (予定含)													
いずれにも該当せず												1	1

* 重複あり

【平成 24 年 9 月 3 日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1 歳未 満	1～4 歳	5～9 歳	10～ 14 歳	15～ 19 歳	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60～ 69 歳	70～ 79 歳	80 歳 以上	計 *
入院患者数	8	27	6	3	1	2	2	5	2	7	18	18	99
ICU 入室										1			1
人工呼吸器の利用							1			1			2
頭部 CT 検査(予定含)		3	3	1	1	1	1				2		12
頭部 MRI 検査(予定含)		8	2		1		1						12
脳波検査 (予定含)		1					1						2
いずれにも該当せず	8	18	2	2		1	1	5	2	6	16	18	79

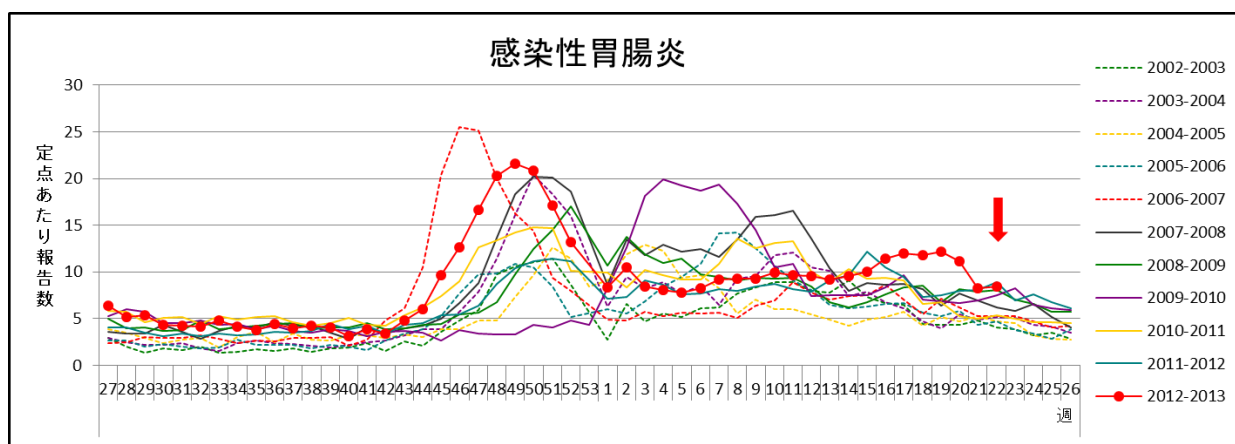
* 重複あり

【鳥インフルエンザに関する情報はこちらをご覧ください】

・ [鳥インフルエンザ A \(H7N9\) について・県民の皆様へ](#)

感染性胃腸炎情報 2013 年 第 22 週 (5 月 27 日 ~ 6 月 2 日)

○岡山県内の患者報告数は 455 名（定点あたり 8.26 → 8.43 人）であり、前週とほぼ同数でした。



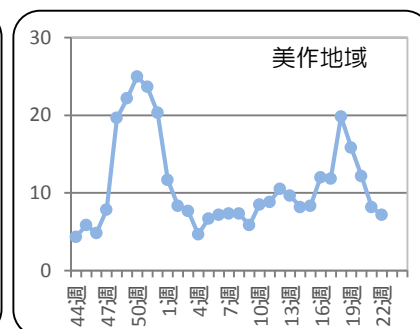
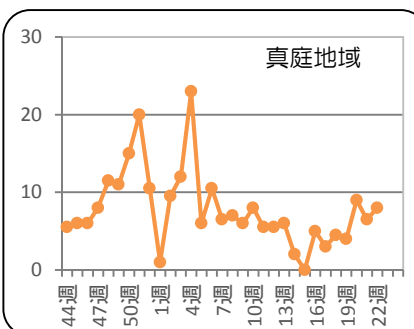
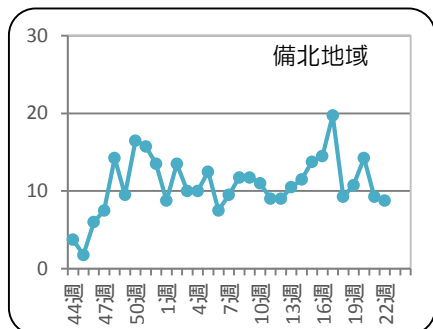
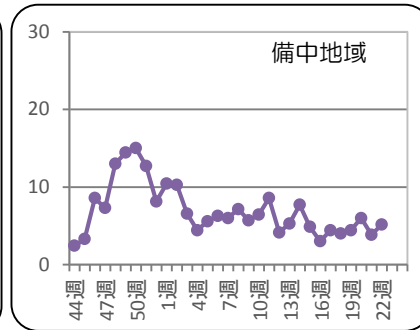
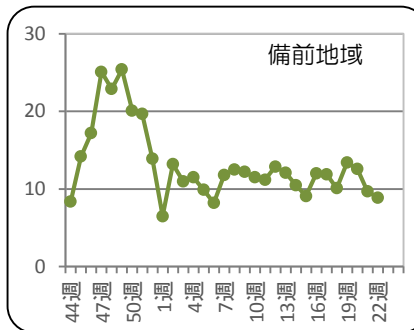
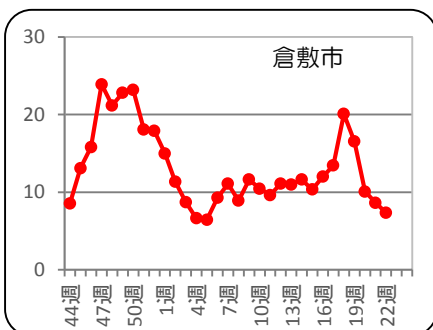
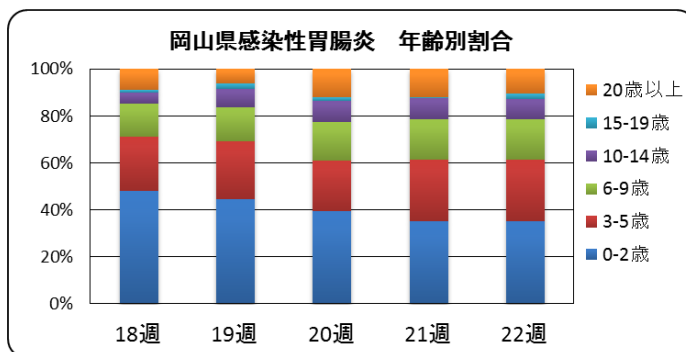
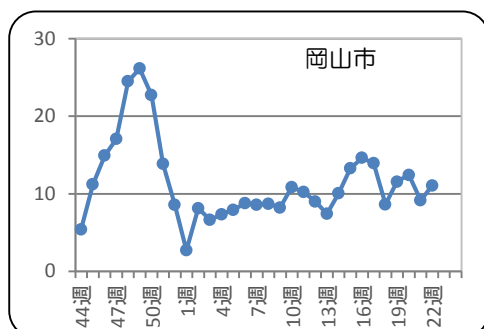
※感染性胃腸炎は、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、前年 27 週 ~ 今年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、455 名（定点あたり 8.26 → 8.43 人）の報告があり（54 定点医療機関報告）、前週とほぼ同数でした。トイレの後や食事、調理の前には、特にしっかりと石けんと流水で手洗いをを行う等、感染予防に努めてください。

年齢別では、0～2 歳が全体の 35%と、ひきつづきこの年齢層の割合が、高くなっています。

例年 3～5 月にかけては、ロタウイルスによる胃腸炎が、0～2 歳の乳幼児を中心に増加するとされています。ノロウイルスに比べ重症度が高いといわれていますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

◆地域別・年齢別発生状況(定点あたり数)



保健所別報告患者数 2013年 22週 (2013/05/27～2013/06/02)

2013年6月5日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	29	0.35	10	0.45	8	0.50	1	0.07	6	0.50	4	0.67	—	—	—	—
RSウイルス感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	29	0.54	10	0.71	6	0.55	—	—	3	0.43	3	0.75	—	—	7	1.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	59	1.09	38	2.71	7	0.64	2	0.20	—	—	—	—	4	2.00	8	1.33
感染性胃腸炎	455	8.43	155	11.07	81	7.36	89	8.90	36	5.14	35	8.75	16	8.00	43	7.17
水痘	76	1.41	26	1.86	13	1.18	19	1.90	2	0.29	6	1.50	—	—	10	1.67
手足口病	53	0.98	3	0.21	9	0.82	—	—	37	5.29	—	—	—	—	4	0.67
伝染性紅斑	3	0.06	1	0.07	2	0.18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
突発性発疹	21	0.39	7	0.50	5	0.45	6	0.60	2	0.29	—	—	—	—	1	0.17
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	16	0.30	6	0.43	3	0.27	1	0.10	5	0.71	1	0.25	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	22	0.41	8	0.57	4	0.36	9	0.90	1	0.14	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	3	0.25	3	0.60	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2013年 22週 (2013/05/27～2013/06/02)

2013年6月5日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	29	0.35	10	0.45	8	0.50	1	0.07	6	0.50	4	0.67	—	—	—	—
咽頭結膜熱	29	0.54	10	0.71	6	0.55	—	—	3	0.43	3	0.75	—	—	7	1.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	59	1.09	38	2.71	7	0.64	2	0.20	—	—	—	—	4	2.00	8	1.33
感染性胃腸炎	455	8.43	155	11.07	81	7.36	89	8.90	36	5.14	35	8.75	16	8.00	43	7.17
水痘	76	1.41	26	1.86	13	1.18	19	1.90	2	0.29	6	1.50	—	—	10	1.67
手足口病	53	0.98	3	0.21	9	0.82	—	—	37	5.29	—	—	—	—	4	0.67
伝染性紅斑	3	0.06	1	0.07	2	0.18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	16	0.30	6	0.43	3	0.27	1	0.10	5	0.71	1	0.25	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	22	0.41	8	0.57	4	0.36	9	0.90	1	0.14	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	3	0.25	3	0.60	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3を示しています。
今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2013年 第22週 2013/05/27～2013/06/02)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	29	-	-	1	3	1	2	1	2	2	1	2	7	-	-	3	2	-	-	2	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	29	-	3	9	3	4	2	2	1	1	-	-	4	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	59	-	1	3	3	8	7	8	8	3	6	4	5	-	3
感染性胃腸炎	455	10	45	64	41	46	49	25	26	20	17	14	40	10	48
水痘	76	-	-	21	6	13	10	4	10	1	3	2	5	-	1
手足口病	53	-	6	24	13	4	3	1	-	-	2	-	-	-	-
伝染性紅斑	3	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	21	-	8	11	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	16	-	-	3	2	3	4	1	-	-	-	1	2	-	-
流行性耳下腺炎	22	-	-	-	2	3	1	3	5	3	1	1	3	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

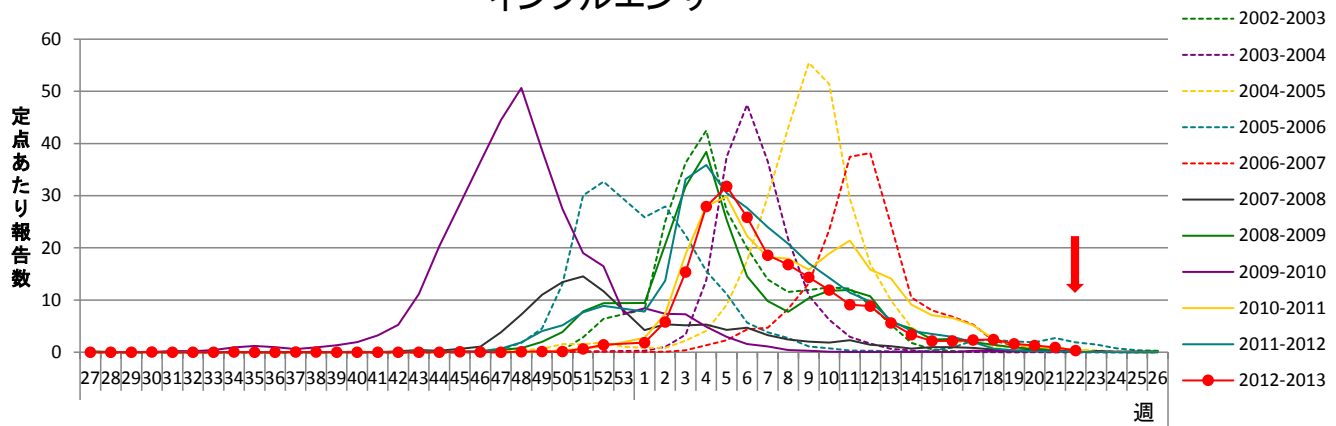
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

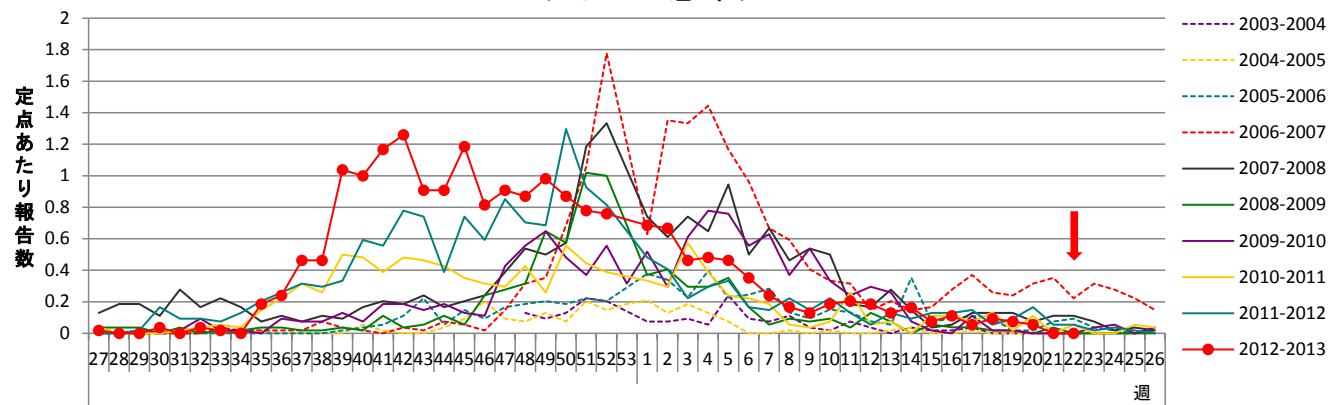
2013 年 22 週

分類	疾病名	2013		2012	疾病名	2013		2012	疾病名	2013		2012
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ベスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	4	126	478	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	1	13	169
	腸チフス	-	-	1	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	-	-	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	4	2
	エキノкокクス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサナル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	-	腎症候性出血熱	-	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-
	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	2	デング熱	-	-	1
	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-
	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	-	-	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-
	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-
	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	-	野兔病	-	-	-
	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-
	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	1	8	29	レプトスピラ症	-	1	-
	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	4	11	ウイルス性肝炎*3	-	3	7	急性脳炎*4	-	2
クリプトスポリジウム症		-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	2	1	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	-	1
後天性免疫不全症候群		-	6	16	ジアルジア症	-	-	3	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	1	-
侵襲性髄膜炎菌感染症		-	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	1	7	-	先天性風しん症候群	-	-	-
梅毒		-	3	7	破傷風	-	1	1	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-
バンコマイシン耐性腸球菌感染症		-	1	2	風しん	4	45	6	麻しん	-	2	6

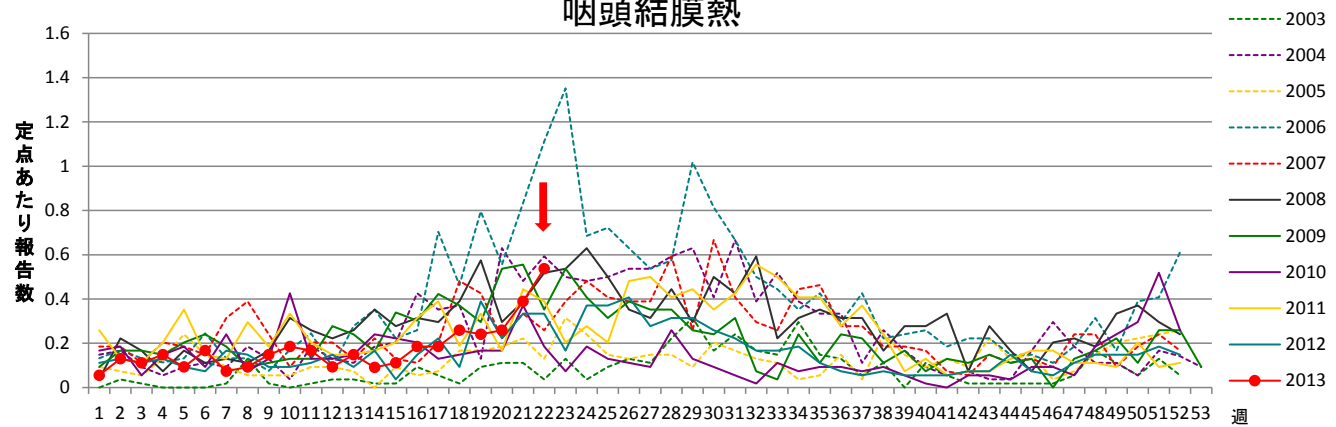
インフルエンザ



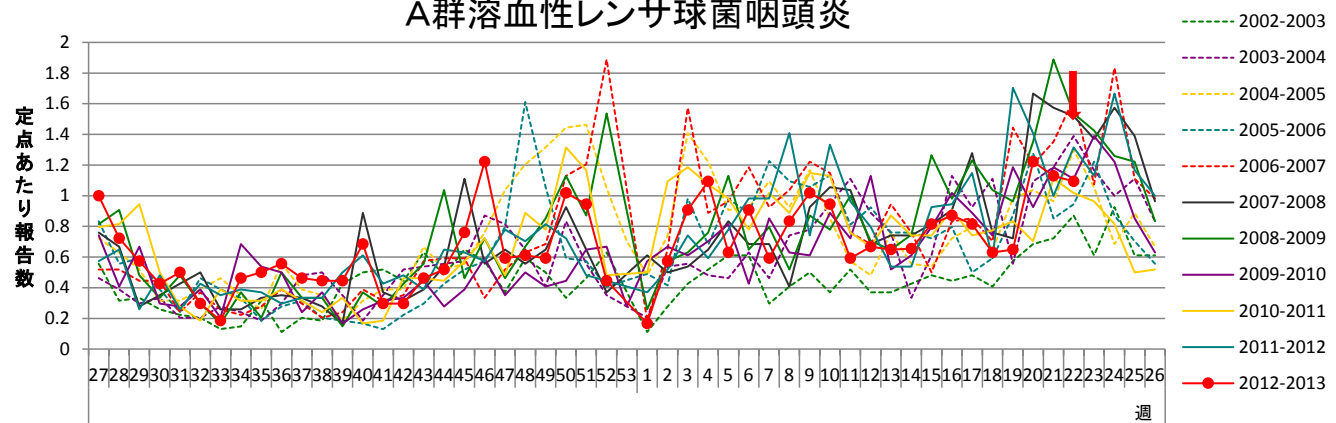
RSウイルス感染症



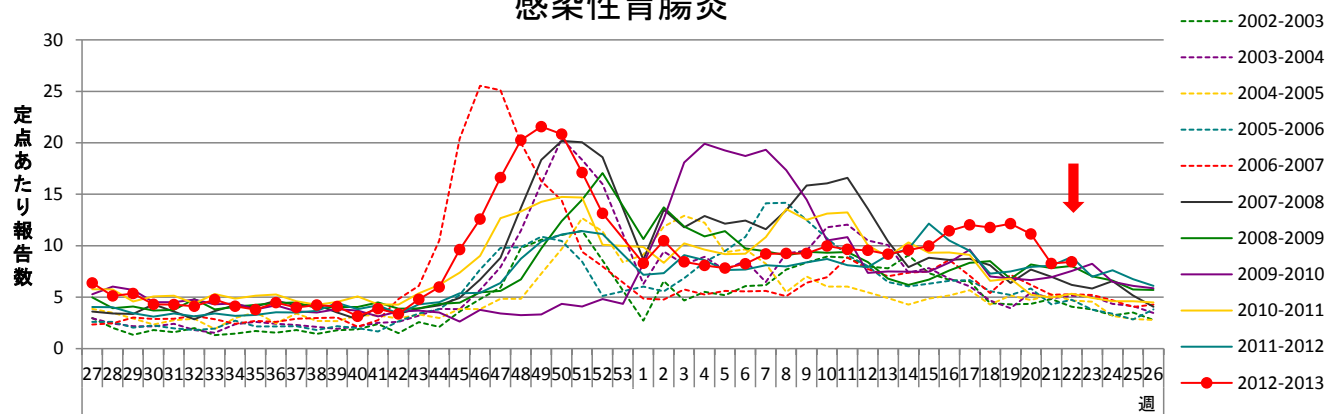
咽頭結膜熱



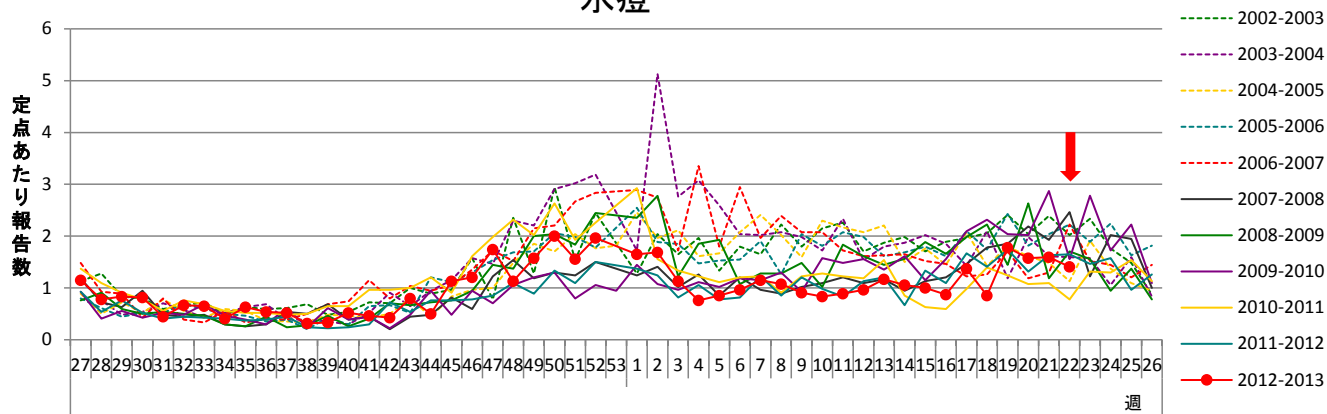
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



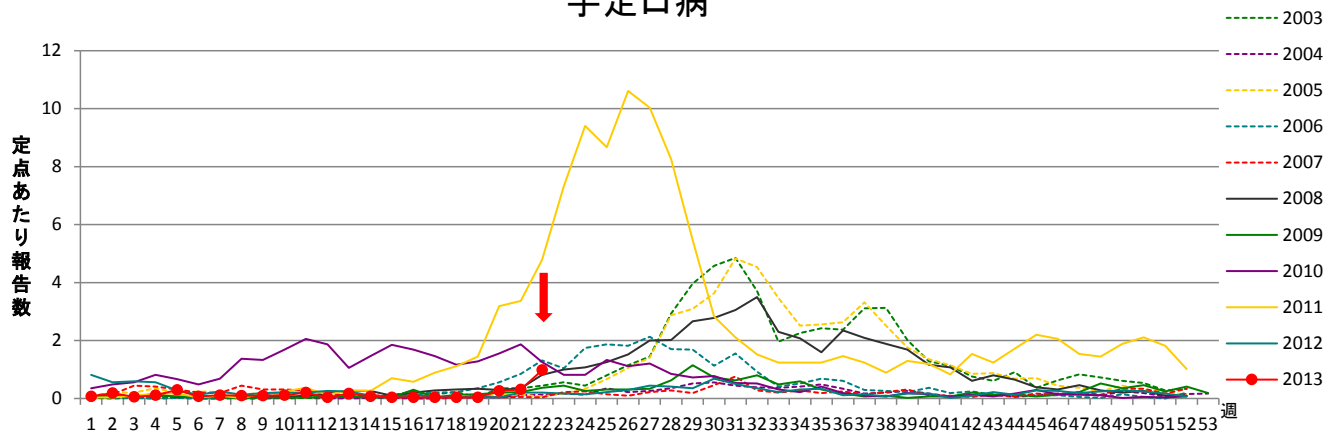
感染性胃腸炎



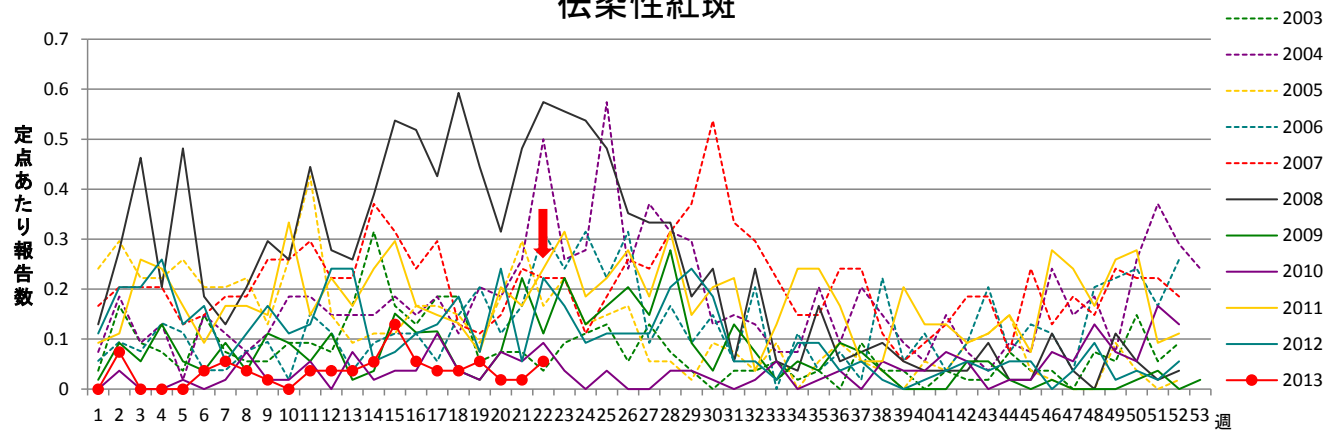
水痘



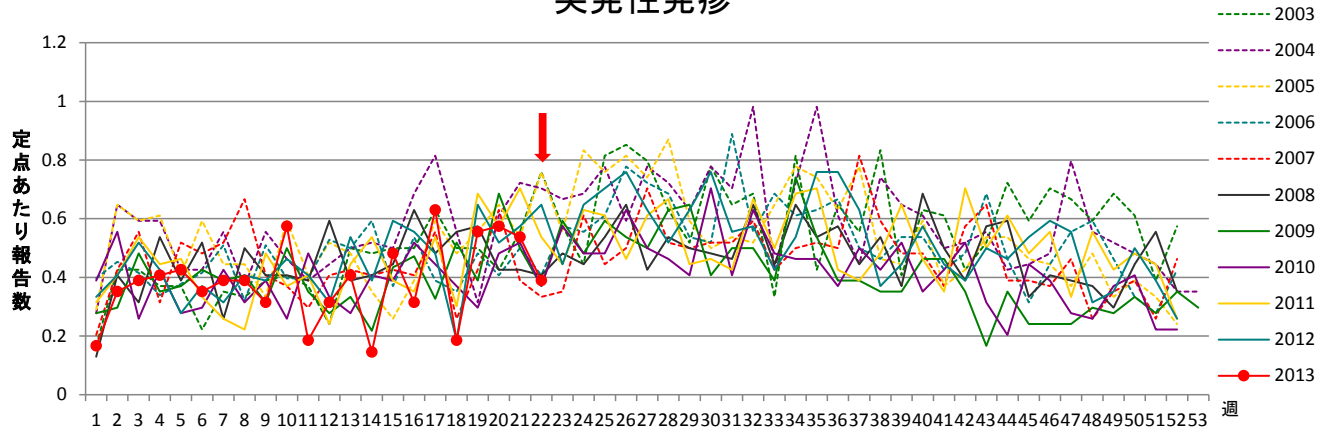
手足口病



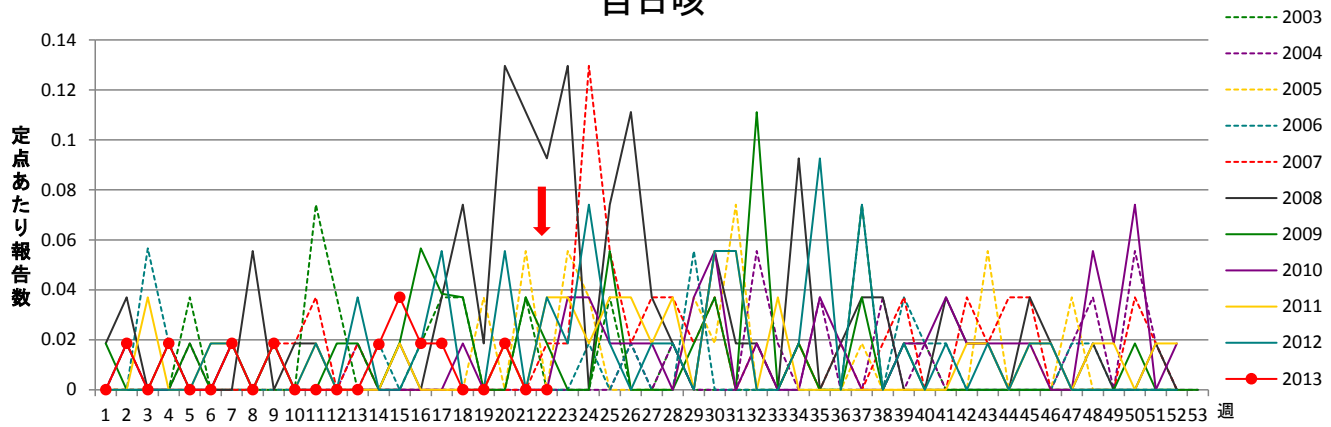
伝染性紅斑



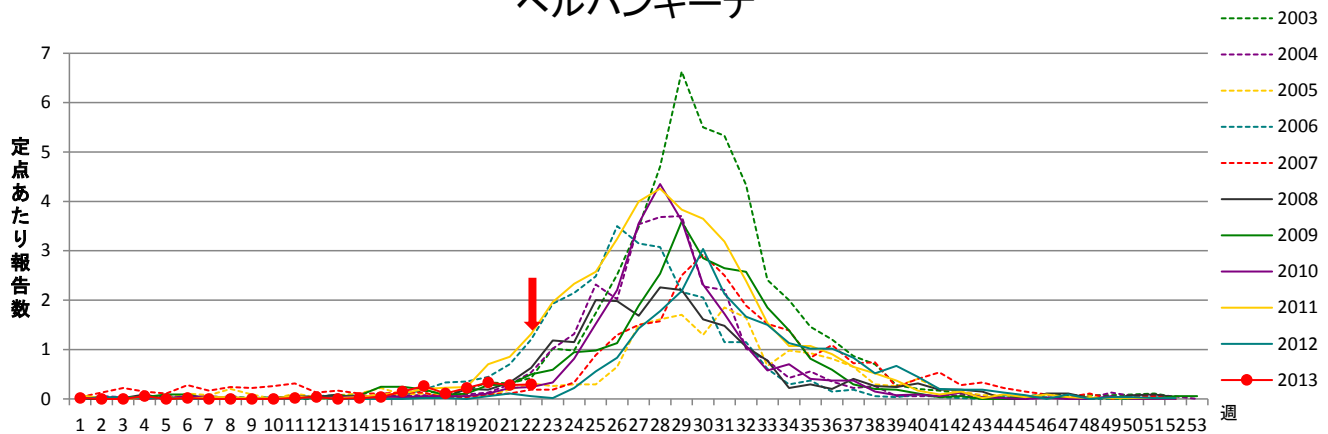
突発性発疹



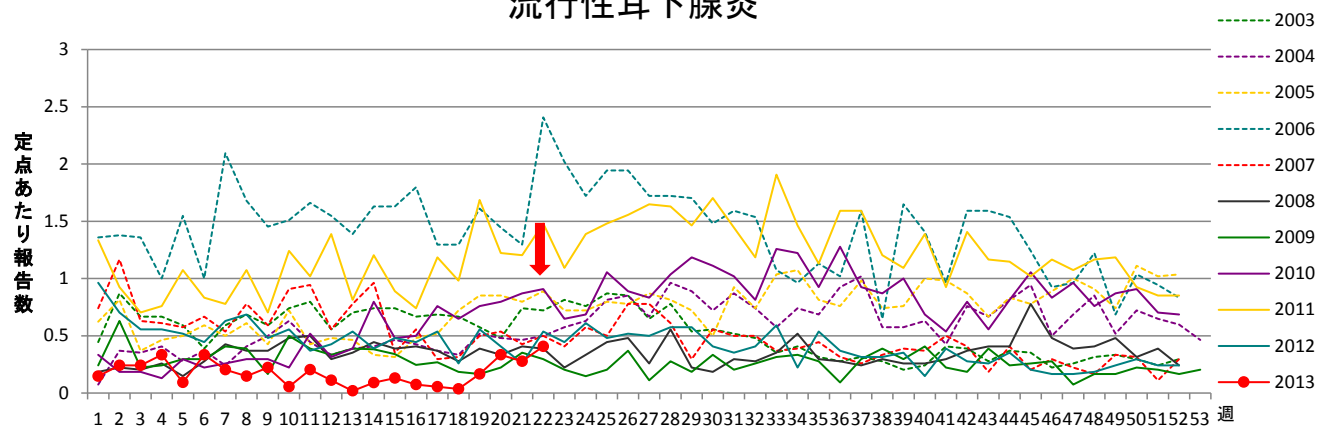
百日咳



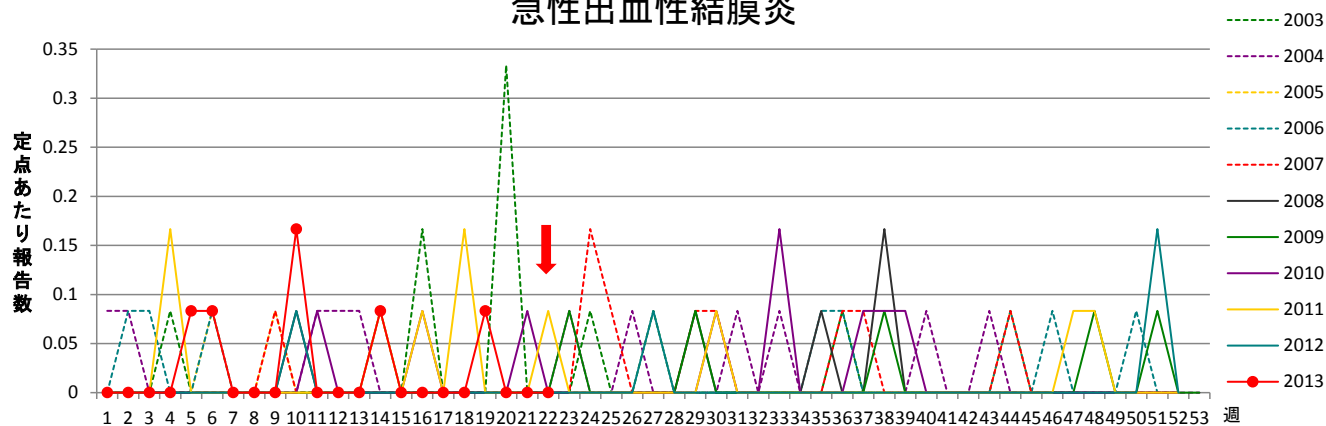
ヘルパンギーナ



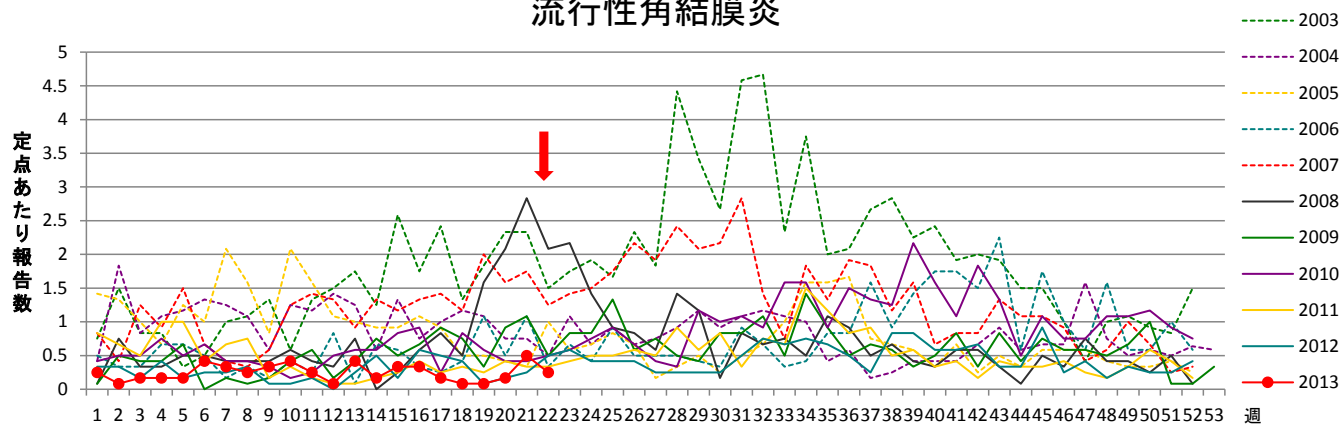
流行性耳下腺炎



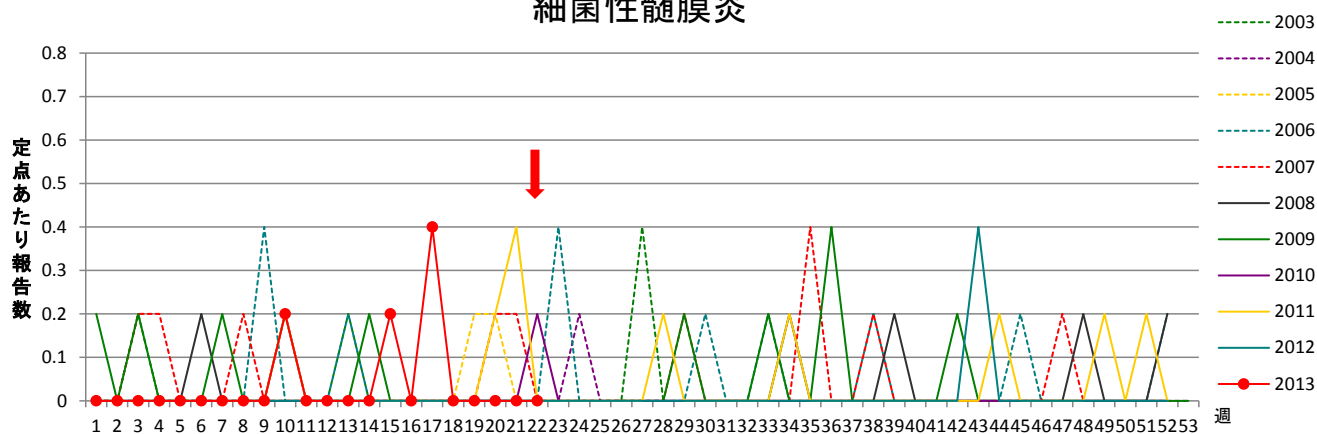
急性出血性結膜炎



流行性角結膜炎



細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎

